

郷土資料館だより

Vol.32. No.1

2009.8.1

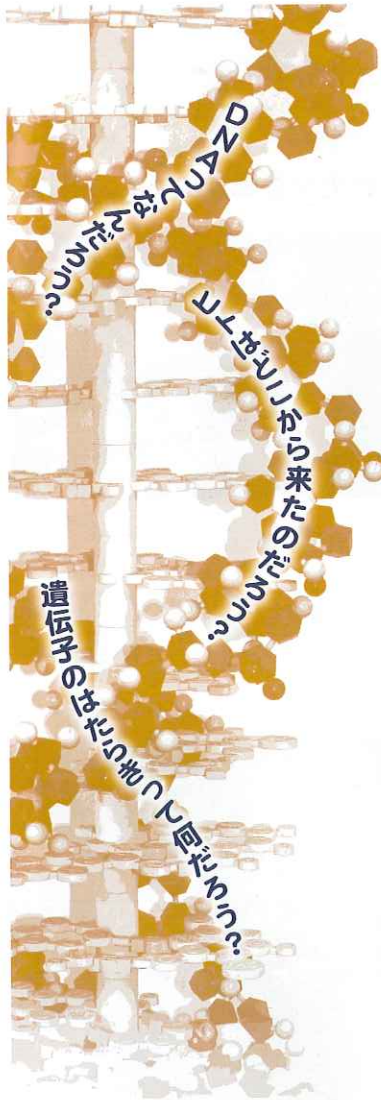
国立遺伝学研究所60周年記念企画展 **遺伝学ってなんだろう？** 開催中

●開催期間 平成21年7月5日(日)～9月27日(日)

●主 催 三島市郷土資料館

●会 場 郷土資料館1階企画展示室

●共 催 国立遺伝学研究所

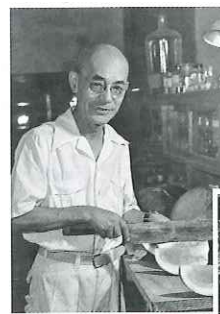


遺伝学ってなんだろう？

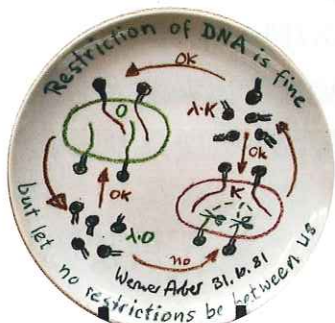
桜の名所として市民に親しまれている国立遺伝学研究所(以下、遺伝研)は、昭和24年(1949)6月1日に三島市谷田に創設されました。遺伝研の歴史は生

命科学の爆発的進展と重なり、数々の研究業績を輩出してきました。生命は複雑なシステムですが、それを解き明かすうえで遺伝学の手法や考え方は非常に強力です。それは生命がゲノムDNA上に書き込まれた遺伝情報に基づいて出来上がっており、生命科学の根幹が遺伝学だからです。本年はちょうど遺伝研創設60周年にあたり、開所記念日の6月1日には盛大な式典が催されました。

この企画展では、創設60周年を記念して、同研究所の60年間の歴史を振り返り、また最先端の遺伝学研究に親しむことにより、ひろく市民の方々に遺伝学への理解を深めていただくことを願って開催しています。



右:種なしスイカを切る
小熊捍初代所長
左:昭和37年(1962)
頃の遺伝学研究所



ノーベル賞受賞学者アーバー(W.Arber)が絵付けした皿

主な展示内容

- 遺伝研の紹介パネル
- 遺伝研の歴史(年表・記録写真・古い実験器具など)
- 遺伝学入門(研究内容のパネル展示)
- ギャラリートーク
 - 内容: 展示解説ほか
 - 日時: 平成21年8月8日(土) / 22日(土)
 - 11:00、13:00(1日2回 各30分程度)
 - 場所: 郷土資料館1階企画展示室(予約不要)

ふるさと講座「百人一首の世界～定家からカルタまで～」開催報告



- 開催日 平成21年3月7日(土) 13:30～16:00
- 講師 金城学院大学文学部教授 神作研一氏
- 会場 本町タワービル4階 ●参加者 34人

本年開催される静岡県国民文化祭での三島市主催行事「小倉百人一首かるた競技全国大会」の開催に関連して、ひろく市民に百人一首について理解し親しんでいただこうと企画された講座です。講師に金城学院大学(愛知県名古屋市)文学部教授で、近世和歌の研究者として知られる神作研一氏をお迎えしました。はじめに、かるた競技開催のきっかけとなった「三島と古今伝授」について当館の鈴木隆幸学芸員による簡単な説明の後、講師から百人一首の歴史や特徴について、当日配布されたレジュメに添ってわかりやすく解説していただきました。講師の軽妙な語り口調に参加者からも大変分かりやすかったとの声が多数寄せられました。また、ふだん見ることの出来ない講師架蔵の貴重本も実際に手にとって見せていただくことができたことから、百人一首をより身近なものに感じてもらうことができ、参加者からは大変好評でした。



企画展「屏風に描かれたふるさと三島」開催報告

- 開催期間 平成21年3月15日(日)～平成21年5月24日(日)
- 入館者数 9,762人 資料点数 51点

鑑賞する機会の少ない三島市有形指定文化財『三島宿風俗絵屏風』(六曲一双・紙本著色、三島信用金庫蔵)を中心に、江戸時代の三島宿の絵図や出版物など三島宿関連資料を展示・公開しました。江戸時代の三島宿の様子を語る上では欠くことのできない屏風を、楽しみながらじっくり鑑賞していただこうと、描かれた人物、名所、旧跡などの景物についての解説パネルを作成し、併せて三島宿を紹介するビデオを常時上映するなど、来館者への鑑賞の便宜をできるだけ図りました。また、子どもたちにも屏風を楽しく鑑賞してもらえよう、屏風を題材としたクイズ(間違い探し)も実施しました。今回の企画展では、三島市内で初公開となる『世古本陣図屏風』(二曲一隻、世古直史氏蔵)も展示することができ、ひろく市民の方々にその存在を紹介することができました。



期間中、会場ではパネルの解説を読みながら、描かれた景物について楽しく鑑賞しているグループや、クイズに挑戦している子どもたちで賑わいました。

第24回国民文化祭・しずおか2009 関連行事紹介

今秋10月24日(土)から11月8日(日)の16日間開催される第24回国民文化祭・しずおか2009では、三島市主催行事として「小倉百人一首かるた競技全国大会～古今伝授のまち三島から～」(11月7日・8日)が開催されます。これに併せて、郷土資料館では下記の関連イベントを企画していますのでご紹介します。

国民文化祭関連企画展「百人一首と古今伝授」 10月24日(土)～11月23日(月・祝)

三島は、歌人東常縁から連歌師宗祇に古今伝授が行われた地として知られています。この相伝の際には百人一首の解釈についても伝授されたといわれています。本企画展では、『古今和歌集^{りょう}度聞書^{どききがき}』や『古今和歌集大伝授』などの古今伝授資料をはじめ、『三嶋千句』『宗祇終焉記^{しゅうえん}』『宗祇像』など連歌師宗祇に関する資料、及び宗祇の百人一首注釈書である『宗祇抄』などの資料、さらに江戸時代の小倉百人一首かるた、三島にちなんだ『みしまかるた』など、約50点を展示する予定です。

ふるさと講座「宗祇ゆかりの地をめぐる」

11月14日(土) 一般市民30人

関連企画展のギャラリートークのあと、宗祇ゆかりの早雲寺(箱根湯本)と定輪寺(裾野)をバスでめぐり、佐野美術館で開催されている特別展を見学します。 ※コースは変更になる場合があります。

企画展関連講演会「三島と古今伝授」(仮題)

11月3日(火・祝) 一般市民40人

企画展「百人一首と古今伝授」に併せ、中世和歌史を専門とする慶応義塾大学准教授小川剛生氏を講師として迎え、中世歌壇の様相と三島における古今伝授について詳しくご講演いただきます。

館蔵絵画資料調査報告

館蔵資料のうち、未調査の絵画資料について整理・調査を行い、そのなかに江戸時代の画家として著名な長谷川雪旦^{せったん}関連の画稿類が数点含まれていることがわかりました。今回、展示公開できるよう補修しましたので、そのうちの1点を報告します。

■ 画稿『山水図』 紙本墨画27.5×61.2cm



◆長谷川雪旦(1778～1843)は、江戸後期の画家。江戸の下谷三枚橋(東京都台東区)に住し、彫刻大工から画工となり、後に桃山時代の巨匠長谷川等伯の末流を自称して長谷川を画姓としました。雪舟の流れをくむ漢画の大家として活躍した雪旦は『江戸名所図会』の挿図を担当し、これを機に法橋位を、さらに晩年には法眼に叙せられました。

横長の画面に、遠景・中景・近景の風景を盛り込んだ水墨画の画稿で、画面左下端に画賛を書き込む位置を示したと思われる墨罫の枠線が引かれています。水墨画とは、おもに墨の濃淡や潤渴を用いて描いた絵画のことで、墨絵ともいわれています。雪旦は、室町時代の作品に影響を受けた伝統的な水墨画や、原画の模写を遺しています。ことに雪舟作として伝わる水墨画の構図を踏襲した絵も描いており、本図はそうしたものの下絵の一つと思われます。

画面右下端には「長谷川雪旦書画記」の印章が押されています。



平成20年度 郷土資料館事業報告

企画展

テーマ	実施日	展示内容	入館者数
「☆これなーんだ?昔の道具☆」	6月15日(日)～ 8月31日(日)	館収蔵品の中から展示機会の少ない資料を中心に、昔の生活道具や戦時中使われた道具を展示し、クイズ形式で紹介。	10,528人
「三島を襲った災害」	9月6日(土)～ 11月30日(日)	昭和33年に発生した狩野川台風から50年を迎えることから、三島を襲った水害を中心に北伊豆震災などの災害も含めて紹介。	17,812人
富士・沼津・三島三市博物館共同企画展 「あそび歳時記」	12月14日(日)～ 2月22日(日)	3市博物館共同企画展として開催。季節ごとの遊びや昔懐かしい遊びを紹介。また、遊びの中のおもちゃについても合わせて紹介。	7,256人
「屏風に描かれたふるさと三島」	3月15日(日)～ 5月24日(日)	三島市指定文化財である三島宿風俗絵屏風にスポットをあて、屏風に描かれた江戸時代の三島宿の様子を街道絵図などの三島宿関係資料とともに紹介。	9,762人

その他の展示

会場	日程	内容
ふるさと歴史文学コーナー (本町タワービル4階)	H.19年11月22日(木)～H.20年5月27日(火)	「東海道と三島宿」
	5月29日(木)～10月14日(火)	「古代の輸送路～埋没河川を求めて～」
	10月16日(木)～H.21年2月3日(火)	「五所平之助と三島」
	2月 5日(木)～	「東海道と三島宿」
西小学校郷土教室(3階余裕教室)	展示替え(夏期休暇中に実施)	一部展示替え

講座・教室・講演会

講座名	日程	講師	テーマ	対象	入館者数
郷土教室(2回)	8月9日(土)	掛井 完 氏	わらじ作りと昔の道具のおはなし	児童・生徒	24人
	H21年1月11日(日)	そら☆えすプリ～も	懐かしの紙芝居	児童・生徒 (楽寿園入園者)	250人
ふるさと講座(4回)	7月13日(日)	関 守敏 氏	江戸時代の旅Ⅱ(第1回)	一般市民	27人
	7月21日(月・祝)		江戸時代の旅Ⅱ(第2回)	一般市民	24人
	11月29日(土)	迫田 信行 氏	頼朝道を歩く	一般市民	17人
	H21年3月7日(土)	神作 研一 氏	百人一首の世界 ～定家からカルタまで～	一般市民	34人
企画展関連講演会	9月20日(土)	谷口 隆太 氏 小泉 安三 氏	狩野川台風を語る ～被災から50年～	一般市民	59人

館蔵品修理報告

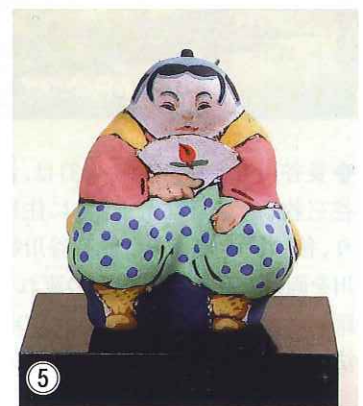
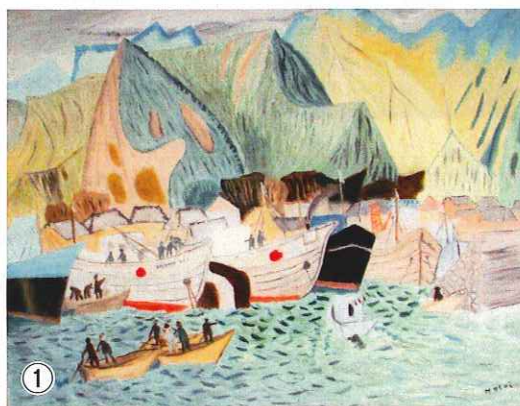
平成20年度に下記の館蔵品の修理を行いました。

●油彩画2点

- ①「下田港」細井繁誠
- ②「花」細井繁誠

●三四呂人形3点

- ③「お雛様」野口三四郎
- ④「ぶち猫」野口三四郎
- ⑤「桃太郎」野口三四郎



ふるさと講座「茂吉をめぐる歌人たち」開催報告

- 開催日 平成21年5月24日(日) 13:30~16:00
- 講師 元日本大学文学部教授 藤岡武雄氏
- 会場 生涯学習センター3階 講義室 ●参加者 53人

昨年11月、斎藤茂吉の研究で著名な藤岡武雄氏(三島市在住)が貴重な文学資料と蔵書を三島市に寄贈され、そのご功績を称え本年5月に篤行表彰を受けられました。それらの資料は多くの方々にご覧いただく目的で、生涯学習センター2階の日本文学資料館に公開されています。本講座は、日本文学資料館の開館特別展として開催されている「茂吉をめぐる歌人たち」に併せ、藤岡武雄氏を講師にお迎えしてご講演していただくこと企画したものです。



講師の研究テーマということもあり、斎藤茂吉の生涯を中心に、森鷗外や正岡子規など茂吉と交流のあった歌人や歌会、茂吉の私生活の様子や妻てる子についてなど、時に冗談なども交えながら解説していただきました。講座修了後は、会場を2階の文学資料館に移して講師によるギャラリートークが行われ、参加者は熱心に講師のお話に聞き入っていました。



日本文学資料館新設コーナー紹介 北杜夫と永井ふさ子の関連資料

この度、新たに茂吉をめぐる人物として作家・北杜夫と歌人・永井ふさ子の資料13点を展示しましたので紹介します。

作家・北杜夫(本名・斎藤宗吉)は昭和2年(1927)東京都に斎藤茂吉の次男として生まれます。大学卒業後、慶應義塾の大学病院で精神科医として勤務するかたわら作家として活躍し、船医として航海に出た時の体験談を綴った『どくどくマンボウ航海記』が昭和35年に刊行されてベストセラーとなり、同年『夜と霧の隅で』で芥川賞を受賞しました。展示では、どくどくマンボウシリーズ(昆虫記、青春記など)や『榎家の人びと』など世代を超えて人気を博した本と共に、自宅でマブセ共和国(マンボウ・リュウベック・セタガヤ・マブセ共和国)を建国し、フクロウをあしらった国旗を掲げ、ドイツマルクに倣った「マブセ」という通貨(50万マブセの紙幣)を公開しています。

一方、歌人・永井ふさ子は、明治43年(1910)に正岡子規と縁戚関係にある愛媛県松山市の医師・永井政忠の四女として生まれました。昭和8年にアララギへ入会し、翌9年9月に子規の13回忌の歌会が向島百花園で開催された折りに茂吉と出会います。その後も茂吉との交際が続き、茂吉がふさ子へ送った手紙は実に150通あまりにも及びました。

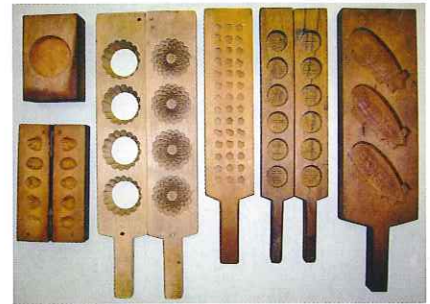
展示している一通の手紙には「あなたはやはり清純な玉でありました」で始まり「恋しき人よ。さようなら」で終わる恋文です。さらに茂吉は「愛の力は宏大深刻です。また、清く正しきものは常に勝ちます。(中略)僕は老残の身をいたはりつつ、せいーばいの為事をして、この世を去りませう」とあり、古いゆくわが身を案じながらも、文中のいたるところに彼女への愛情が満ち溢れています。



寄 贈 資 料 紹 介

平成21年3月～4月にかけて次の方々からご寄贈の協力をいただきました。ありがとうございました。
(敬称略)

和泉 洋子 三島市	・菓子木型	7点
三島市財政部課税課	・航空写真(箱入り)	22点
	・三島市1/1000写真図撮影 :平成7年12月(箱入り)	4点
	・画地計測図1/500撮影 :平成6年5月	7点
	・住居表示台帳一式	1点



菓子木型

新規購入資料紹介 『古今和歌集^{りょうど ききがき}両度聞書(古今和歌集抄)』

三島は、室町時代の文明3年(1471)に歌人・東^{とうのつねより}常縁から連歌師・宗祇への古今伝授が行われた地であるといわれています。古今伝授とは、日本で最初の勅撰集である『古今和歌集(古今集)』の解釈を秘伝という形で伝えてきたもので、宗祇が東常縁から聞書きした講義ノートにあたるものが本書です。「両度」とは、2度に渡って伝授が行われたことを表しています。1度目は文明3年1月28日から4月8日、2度目は同年6月12日から7月25日に行われました。ちなみに1度目の伝授の際に「宗祇独吟千句」いわゆる「三嶋千句」が三嶋明神(三嶋大社)へ奉納されています。この両度聞書は長く写本で伝わっていましたが、江戸時代の寛永15年(1638)に京都・風月宗智により『古今和歌集抄』として刊行されました。

第24回国民文化祭関連企画展に併せ、昨年度当館で購入したのですが、今秋の企画展「百人一首と古今伝授」にて公開しますので、ぜひ多くの皆様にご覧いただきたいと思ひます。



【編集後記】

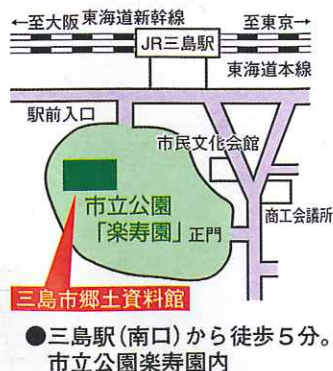
平成20年度も企画展をはじめ講演会や講座が無事に終了。多くの方々からご協力をいただく中で開催することができました。感謝。本年度は国文祭関連事業がもりだくさんなので、皆さんからの激励の言葉を「心の支えフォルダー」に保存して、新型インフルエンザに負けずに頑張っていこうと思ひます。(T)

利用案内

●休館日
毎週月曜日
(祝日の際は翌日)
12月27日～1月2日

●開館時間
午前9時～午後5時
(4/1～10/31)
午前9時～午後4時30分
(11/1～3/31)

●入館無料
(ただし、楽寿園入園の際に有料)



郷土資料館だより vol.32 No.1 (第94号)

発行日 平成21年(2009)8月1日
(年3回発行)

編集 三島市郷土資料館
〒411-0036
静岡県三島市一番町19-3 楽寿園内
TEL 055-971-8228
FAX 055-981-3730

E-mail: kyoudo@city.mishima.shizuoka.jp
URL: <http://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo/>
発行 三島市教育委員会